



浜名湖に新たな水源をつくる 地球のたまご計画

Team Taka Michi / Philippe-Landscape Design / Ritsumeikan

事業概要

「地球のたまご」は「空気集熱式パッシブソーラーシステム」をはじめとした環境共生技術の普及につとめるOMソーラー協会・OM設計事務所の本拠と研修施設を兼ねた施設である。

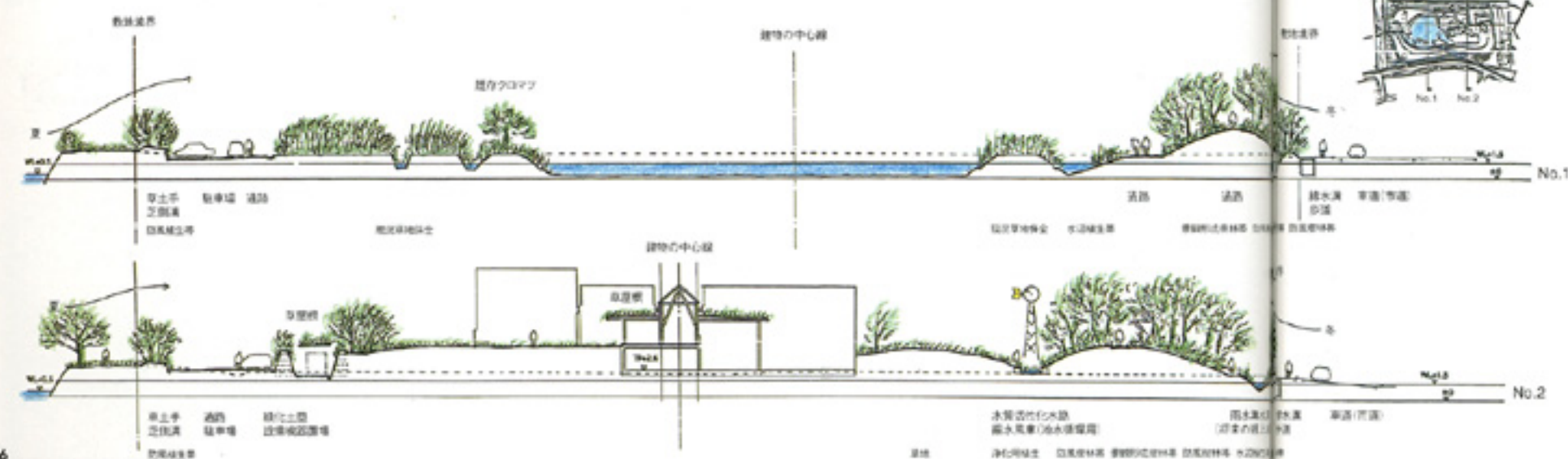
この計画は単なる社屋建設ではなく、当初から、OMソーラーのシンボルであり、研究・開発の拠点であり、また情報発信基地として考えられてきた。[地球のたま

ご]という名称は、社員の発意により、この場からさまざまな技術が生まれ育っていくように、との願いを込めて名付けられた。

浜名湖畔の1万坪を超える用地を活かして、どのようなことが実現できるか。建物は「住まい」のスケールで、ランドスケープは「湖畔の再生」を目指し、OMソーラーをはじめパッシブ要素技術もさまざまなものが実施されている。



1 デッキ下の20坪の水田は水質浄化池の最下流部にあたる。2 コリドールと同レベルでのびたデッキ。穴手に見えるダンテックはどんぐりプロジェクトで近隣より移植したもの。防風のため敷地内に80株ほど移植した。3 コリドールの屋根に設置されたペトナム産気筒が風を受けて勢いよく回る。ガラス屋根には、酸化チタンを塗布したスクリーンに井戸水が放水され、涼をとっている。4 造成した池沼には既存の草のタフを移植。池には浜名湖流域の生物（ゲンゴロウ、メダカ、カワアナゴ、ウナギ、トノサマガエル等）が放流されている。5 近くのため池（その後埋め立てにより消滅）より、「どんぐりプロジェクト」で種を採取・育成したヒシ。



着工直後の様子。湿地改良の排水トレッチが配線に囲まれた（02年1月）*



緑土とアースワークで建築とランドスケープを一体化している。写真/上田明



1 エントランス周リ。アースワークで、対面道路2階へもアプローチできるようにしている。2 コリドールからアルコーブ（フリースペース）、中庭の眺め。3 カフェテラスからは浜名湖が一望できる。4 南北に貫通するコリドールから池を望む。屋根のスクリーンを流れる水が涼しげな影を落とす

建築・空間構成

OMソーラーの基本である住宅のスケールを持ち、地元の木を使って建てる、というコンセプトに基づいて、6棟の事務所と、カフェテリアをコリドールにより接続する分棟型の建物計画になっている。ランドスケープにとけ込むような、低層2階建ての建物で、各種にさまざまなOMソーラーシステムが導入されている。オフィスとしての利用を考え、あえて南面の開口部を減らし、北側の順光を活かす展開で、木材は、「近くの山の木で家をつくる運動」の先駆者と言える地元の個人・金原明善の植林した天竜杉を用い、OM木材乾燥庫で乾燥させて利用している。



建物西側。手前の盛土部の苗木が成長すれば建物は森の中に沈む。写真/上田明

計画地は浜名湖村半島東部に位置し、高さ約2.5mの石積護岸に囲まれた養魚場跡の埋立地である。敷地面積約2,700㎡の養魚池は周辺一帯を含め、バブル期に埋め立てられ、その後放棄されていた。内陸側は市道、湖側は石積護岸で区画され、陸から湖への地形、水系の連続性は失われていた。

2002年から3年間に渡って行った浜名湖の流域における動物のロケハン、在来の植生や生物が息を絶する場所を求めて、敷地周辺部から流域の最上流部にまで及んだ。しかし除草剤や農薬の散布によって水田や休耕田のあぜ道の植生は極端に貧弱で、生物の気配がなく、また山林は竹の侵入によって藪と化している。さらにお茶やミカンの生産量を誇る浜名湖流域では、

大量に散布される農薬によって水質の悪化が進行している。ロケハンを通じてイモリやカエルが元気に泳ぐ、無農薬・無除草剤の水田を目にすることができたのは、浜名湖の主流である都田川水系の最上流部の愛知県との県境にほど近い集落などわずかであった。日本全国どこでも、都市部は建材に覆われヒートアイランド化し、都市周辺部は緑が多いがその環境の劣化は驚くほど進行している、というのが実態である。

こうした厳しい現状を認識した上で、「地球のたまごプロジェクト」のランドスケープ計画はこの地が浜名湖の新たな水源となることを目指し、流域の環境を再構築することを意図した試みでもある。



中庭。育成した苗木を全棟植栽し、職員の貸入られるようにして



屋上のバッシブ蓄水技術。ソーラーパネル、草屋根、ベトナム



事務棟南側。石詰めのアースワークには、カニが潜みついた。いずれも植物で覆われ、保水するバッシブウォールとなる

名称	地球のたまご
所在地	静岡県浜松市村松町4601
発注者	OMソーラー協会
設計・監理	建築/永田昌典+OM研究所 設備/科学技術庁環境研究所（高岡三郎） ランドスケープ/プランタゴ（田崎理夫、小嶋浩子、小田野真由美）協力/ニューシビル（佐伯清寛、滝澤沙織）
施工	築山建設（建築・外構）
規模	敷地面積/32,700.06㎡、建築面積/1,376.45㎡、延床面積/2,018.85㎡
工期	設計期間/2001年10月～2003年6月 施工期間/2003年6月～2004年5月
◎ごんくプロジェクト	
○コンサルタント/プランタゴ、先澤アーセラー、環境植物調査事務所	
○実行/OMソーラー協会、OM計画スタッフ	